

梅鶯仏教壮年

第11号
2004年
5月9日

次回例会のご案内

期日：5月30日（日）
夜7時～8時半（法輪寺本堂）

プログラム

お勤め・法話

話し合い

お勤め練習（正信偈草譜④）

◎話し合いテーマ

「仏教―その教えの根本

は」

新年度を迎え、桜や桃の花を愛でるうちに春が過ぎ、ゴールデンウィークと呼ばれる大型連休も様々な思い出を残して過ぎ去ったことと思います。若葉がむせる四・五月は大変良い季節なのですが、何か慌ただしく、気分も高揚する季節ではないでしょうか。そんな中でふと足を止め、共に人生を思索する一時を持つてみませんか。今年度初の例会です。皆様のご参加をお待ちしています。

*本年度より北村開子さま、北村佳美さまが、賛助会員としてご加入下さいました。ご法友をお誘い合わせ下さい。

いまや春―、春が来て、春なればこそながめられる。春の花が咲いている。春の鳥が鳴いている。春のおとさず、聞きもらさず、春の姿をながめ、春の声を聞こう。今年の春は、今年だけのものであり、わが生涯に初めて会うもの、ふたたび会えぬ一期一会の春だから。

いま出会った「今日」というこの日は、過去にも出会うことのない―いま、はじめて出会う「今日」である。一期一会の「今日」である。希望にもえて、感謝にみちて、生甲斐をおぼえ、意義をさとする「今日」たらしめよう。すぐに別れる「今日」なれば、その刻々を大切にし、しめよう。―出会うてよかった今日」たら

寺川幽響先生「きょうだい」より

《勤行―正信偈草譜》

○お勤めのルーツは？

次回例会で、いよいよ正信偈草譜練習の最終回を迎えます。そこでお勤めについて今一度おさらいをしたいと思います。一般的なお坊さんがダミ声で勤めるのがお経とかわれがちですが、お勤めは正式には「声明」と呼ばれ、経文に節をつけて唱える仏教儀式の古典音楽なのであります。したがって、全て正式な音程と長さがあります。そのルーツを辿りますと、インドから中国を経て、空海などにより日本に伝えられました。そして様々な彩りが加えられ今日まで伝流されてきたのです。その過程で浄瑠璃・義太夫・長唄・音頭などが生み出され、日本音楽の源流といわれています。現代の歌謡曲や演歌などもそのルーツは声明なのです。○何故「宇賀野節」では？だめなのですか？も、どんなに素晴らしい歌詞の歌でも、皆がバラバラの節で歌えば楽しくありません。声明も同じで、皆が揃ってお勤めをすることによ

「言葉は少し難しいので、できるだけ分かりやすく次